



そうじゃ 総社でれきし 生きた人々の歴史や暮らしをくわしく見てみよう！

まちかど郷土館は、総社市内で唯一残っている明治時代の洋風の建物です。
 明治43年(1910)年に建てられた旧総社警察署の庁舎を保存活用して、昭和63年(1988)に開館しました。

1階には、総社の歴史が一目でわかる歴史コーナーや、昔使われていた道具や物などを展示しています。2階には、備中売薬や阿曾の鋳物、い草など、明治時代よりあとの総社を支えた伝統的な産業を紹介しています。

◆ しせつ 施設のおすすめ

1階にある「総社商店街絵図」には、昭和10年(1935)ごろと昭和30年(1955)ごろの、1.9kmにわたる総社の街並みが描かれていて、時代とともに変化するまちの様子や人々の暮らしを知ることができます。

2階の備中売薬コーナーでは、遠くの地域まで行って薬を売り歩いていた備中売薬がどのようなものだったかを学ぶことができます。例えば、昔の売薬商人のかっこうをした人形や、薬箱の中から使った分だけ代金をはらう置き薬などを展示しています。また、「犀角湯」という貝がらの器に入った薬や、「たこ薬」というタコの絵が描かれた腹痛の薬など、実際に売られていた薬も見ることができます。

◆ こ 子どもたちへのメッセージ

総社は、昔から気候が安定し、地形に恵まれていたので、多くの商人が集まり産業にも恵まれました。まちかど郷土館では、展示品の一つひとつから、こうした総社の歴史はもちろん、昔の人の知恵や工夫も学ぶことができます。その中には、夏休みの宿題や調べ学習にも役立つような新しい発見があるかもしれません。いつでも気軽に来てくださいね！



昔の薬箱



たこ薬



さてつ 砂鉄にさわれるコーナー



そうじゃ ささ いものさんぎょう 総社を支えた鋳物産業



いぐさ たたみ そうり 藁草は畳や草履に使われます